

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970900142		
法人名	有限会社 ワンカラ		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	高知県高知市宿毛市港南台2丁目9-25		
自己評価作成日	平成28年1月31日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様が安心して生活できるように、家庭的な雰囲気作りを心掛けています。健康面にも気を配り、定期的を受診したり、24時間看護師が対応できる体制を整えています。職員としては、研修に参加する等して技術や知識の向上に努めています。地域の行事に参加したり、散歩に出た時などにも会話を交わす等して交流を深めたり、理解をして頂けるように努めています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=3970900142-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は高台の住宅団地の一角にあり、利用者は家庭的な雰囲気の中で、明るくゆったりと過ごしている。管理者は看護師資格と医療職経験も活かしながら、利用者が健康で、家族と暮らしていると感ぜられる事業所を目指している。</p> <p>開設当初から、毎日利用者全員の入浴を支援するとともに、利用者の下肢筋力の低下を防ぎ寝たきりにならないよう、天気の良い日は毎日散歩に出かけるなど、理念にもある心身状況の把握と健康維持に努めている。開設後10年を超えるが、当初から介護度2を維持している利用者もいる。</p> <p>職員も管理者同様、利用者と家庭的な生活を過ごせるよう、日々良好な関係を保っている。研修会にも参加して資質向上を図り、利用者との接し方やケアのあり方を検討し、利用者が自ら出来る事を楽しめるよう、「家族的な普通の生活」、「利用者の権利の尊重」という理念に立ち返りながらケアに取り組んでいる。</p>
--

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で地域との関係を重視する理念を職員全員で共有して、カンファレンスで理念に沿ったケアができるように、具体的な例を持って話し合っている。	「家族的な普通の生活環境、利用者の権利尊重と心身の把握、地域社会との関係継続」を内容とする理念に沿って、利用者が日々ゆったりと過ごせるよう、ケアに取り組んでいる。理念は月1回の職員会で確認し、具体的な事例を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日散歩に出かけた際に地域の方と会話を交わしたり、地域の行事に参加するようにしている。又、地元の中学生の職場体験学習の受け入れを行っている。	自治会に加入し、年1回の防災訓練と年2回の清掃活動に参加して、地域住民との交流を図っている。また、散歩のときに近隣住民と挨拶を交わし、住民からは果物や野菜等が差し入れられている。また、2カ月毎に、職員が事業所便りを周辺に配布し、事業所の周知を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花みずき便りを配り、認知症について理解して頂けるようにしている。また、介護の相談などにも応じていることとお知らせしている。AEDを設置しており、地域の方も使えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度、会を行い市役所、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族様へ情報を報告して話し合い、意見を頂きサービス向上に活かすようにしている。	事業所からは行事や現状報告とともに、毎回必要とする議題を具体的な資料を添えて提案しており、参加者から質疑や意見が多く出され、双方向的な会議となっている。外部評価結果や目標達成計画についても意見交換を行い、議事録は詳しく記載して全家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者やホームの運営の件で随時相談し、積極的にアドバイスを頂けるようにしている。	市担当課には運営推進会議で事業所の状況を伝え、市からの情報や意見を運営に活かしている。市から意見のあった防災マニュアルや生活保護に関する相談などを、会議後も引き続き行い、連携を密に取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員を対象に、拘束に関する研修を行うようにしている。常に職員が見守りを徹底して身体拘束を行わず、玄関の施錠もしないケアに取り組んでいる。	外部や内部の研修を通じて全職員が身体拘束に関する理解を深め、身体拘束をしない意識を共有し、利用者の行動を見守りながらケアを行っている。夜間はセンサー等を使用せず、見守りの回数を多くしている。また、行動制限にならないよう言葉遣いにも注意を払っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やカンファレンスを通じて、虐待防止の理解を深めている。不適切なケアについても都度話し合ったりして確認、認識を持ち、人権についての取り組みも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に会社で行った成年後見制度の手続きを説明し、学ぶ機会を持つようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等を十分に理解して頂けるように、時間をかけて説明している。入居後の事に関しても、施設としての対応等(ターミナルケアの事等)を理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開いて意見や要望をお伺いして、運営に活かすようになっている。面会に来られた際に、利用者の状況をお話して家族様の要望等を話し合い、運営に反映するようになっている。	家族の来訪時には、利用者の近況を報告し、家族の意見や要望を聞いている。家族会は年2回開催して、家族同士で話し合う場も設け、内容を議事録にまとめ全家族に送付している。また、家族と利用者の食事会等のうちとけた雰囲気の中で意見等を聞くよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会を行い、職員の意見や提案を話し合う場を設けるようになっている。意見を出しやすい雰囲気作りを心掛けている。	毎月の職員会では前月の反省や当月の目標設定、行事の意見や提案が出されており、管理者は意見等を運営に活かしている。職員の退職や異動、看取り等で多忙な中でも職員の意見を聞いて、職員のモチベーションの維持に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップへの支援を行い、職員の向上心を高めるように努めている。職員個々の勤務状況に目を配り、やりがいのある職場作りに努めている。会社の集まりの中で表彰を行ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修はもとより、新任、現任に応じて多くの職員が参加できるように、持ち帰って伝達研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知県グループホーム協会主催の会への出席や、四万十市内の事業所との交流会など他施設の取り組みも参考として質の向上改善に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様や市関係職員と一緒に事業所を訪問して下さって、状況を知り把握することで、本人との対話にスムーズに安心感を持って頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活状況や困り事等を傾聴して、事前に訪問しつつコミュニケーション作りを心懸けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人はもとより、家族様の不安な気持ちや求めに対して、じっくり聞く事により、今何が必要かを見極めて他サービスの利用も考えながら徐々に支援をしていくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いやその中に見られる不安や苦しみ、不安等を知る事に努め、支え合う事に留意している。利用者様は人生の先輩であるという考えを、職員が共有する事に努めている。支援する立場という考えのみでなく、利用者様に教えてもらえる事はないか、との視点においても工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員との思いが少しずつ重なり合い、本人を支えていくための協力関係が築けるように、家族の思いに寄り添いながら出来事の情報等を共有し、本人を支えて家族と同じような思いで支援している。本人と家族様で、電話で話をしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院に、家族と共に行き続けて一人一人の生活習慣を続けている。馴染みのスーパーに毎月買い物に行っている。	友人や親せきの訪問があれば、関係の継続を依頼している。毎月行きつけのスーパーへ買い物に行ったり、馴染みの美容院を利用したり、近くの喫茶店に出かけるなど、可能な限り、馴染みの場所への外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が上手くいくように、職員が調整役となって支援している。又、一緒に食事やお茶を飲みながら関係の円滑を図っている、		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所への移動の希望に対して、入所申込み手続等や情報提供を行うとともに、退所後も訪問を行ったり家族様と連絡を取り合う等している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けし、把握に努めている。言葉や行動からその真意を推し測る事で、それとなく確認するように努めている。その他、家族や関係者から情報を得るようにしている。	利用者の生活歴等の基本情報や家族からの情報を得て、利用者の意向を汲み取るようにしている。日々の関わりの中でも、行動や表情などから、思いや意向の把握に努め、家族と同じように接し、利用者本位のサービスに努めている。	日々の利用者の何気ない一言や新たに把握した趣味や好み、特技、背景などを、「心身の情報シート」に追記して、一目で分かるよう内容の充実を図り、全職員が共有のうえ、利用者一人ひとりの意向に沿ったケアができるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活背景を知れば知る程、その人の理解につながっているため、重要な事だと考える。本人はもとより周辺の人達及び行政の方々からも、力をお借りして情報を得られるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムの把握、食事や睡眠、排泄の状況を個々に知る事に努め、体調の変化に気付く事、本人の生活の中で得意な事、出来る事の把握を試みている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	暮らしの中で本人の変化に応じてカンファレンスを行う等して、生活に即した計画に変更していく。家族の要望や本人も参加して頂き、担当者会議の中で検討していく。	介護計画は利用者の日々の気付きや変化を把握し、担当職員、利用者、家族が参加して話し合い、職員全体でカンファレンスを行って作成している。基本6カ月ごと、利用者に変化があれば随時に見直し、現状に即した計画を作成し家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に計画の実践を通じて日々の変化を記録して、勤務時間時は確認するよう義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて通院の必要な場合は迅速に対応し、家族に代わって受診代行し入院の準備や付添介助も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	有料ボランティアの理美容の活用や、本人の行きつけの美容院に通ったり、スーパーへの買い物などに毎日出掛けている。運営推進会議の中でも意見を頂き、協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人主体のかかりつけ医や、希望の病院へ受診するよう取り計らっている。特に緊急受診の際などの受診病歴もあらかじめ聴取している。訪問診療を受け入れている場合もある。病院受診は同行する場合も多い。	本人、家族が希望する入居前からのかかりつけ医へ受診している。通院は基本的に家族対応であるが、家族の都合で管理者が対応する事もある。受診結果は家族、事業所双方で共有し、管理者が受診に同行した場合は、病状に応じて家族へ電話或いは面会時に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から体調や些細な表情の変化を見逃さない視点を持って観察し、看護職に報告して医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族等と相談しながら、医療機関に対して本人に関する情報の提供やケアについて話し合い、スムーズに退院できるよう積極的な支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけの医師、家族、ケア関係者と意向を確認しながら対応している。その上で、職員全体で話し合い連携を図りながらチームで支援している。	入居時に「看取りに関する指針」に沿って、家族に事業所の対応を説明している。事業所での看取りを希望し、利用者が重度化した場合は、主治医を交えて方針を検討したうえで同意書もらっている。職員の勉強会や意思統一等看取りのケア体制は整っており、今までに6名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故等にも慌てずに、確実かつ適切な行動がとれるように日々心懸けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜勤1回と施設で訓練をし、地域との避難訓練にも積極的に参加し、協力してもらうなどしている。また、災害時に備え食料、飲料水、必要物品を常に準備している。	年2回消防署が立ち会い、火災・地震の避難訓練を行っている。また、年1回夜間を想定した自主訓練を行い、地域の防災訓練にも参加している。しかし、事業所の避難訓練には、地域住民の参加協力は得られていない。非常用食料、飲料水、備品は1週間分を備蓄している。	災害時は近隣住民の協力が不可欠であり、運営推進会議等で協議し、地域住民の参加協力を得て訓練が実施できるよう取り組んでいくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の利用者に合わせ、尊厳、プライバシーには気をつけ権利を守り支援している。	利用者一人ひとりを尊重し、トイレ誘導時は耳元でさりげなく声をかけている。利用者の尊厳を損なうような不適切な声かけや対応があれば、管理者が注意している。利用者の個人的な話は他の利用者等がいる場所ではしないよう、プライバシーに配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の尊厳と権利を尊重し、誇りやプライバシー確保について徹底している。本人の希望や好みを把握して、表情など反応を注意深く見ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や時間スケジュールに合わせるのではなく、一人ひとりのペースに合わせてゆったりと過ごせるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の価値観や一方的な支援ではなく、本人の好みや意向等を支援している。また、馴染みの理美容院の利用など、希望に合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来そうな下準備を利用者と共に職員が行い、台拭き、ランチョンマット等一連の作業と一緒に食事を味わいながら支援している。	食材は業者委託で購入し、味付けや盛付けは事業所で行っている。食器運びや後片付け、テーブル拭きなど利用者に出る事を手伝ってもらい、おやつは事業所独自で作り、誕生日会は特別メニューとして変化を持たせている。職員は利用者を見守り、楽しく食事が取れるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から利用者の食べ物、飲み物の好み、習慣の様子を把握しながら、体調や水分量、体重増減など健康記録表をチェックしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアは必ず行い、義歯を洗浄する等、1人1人の利用者の習慣や力を活かしながら支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎食前後にトイレの声掛けや誘導する等定期的に行い、1人1人の排泄パターンや習慣に合わせて、気持ち良く排泄する為に工夫している。	個別の健康記録表で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。食事前後に利用者の動きを見て声かけし、トイレへ誘導している。日中は布パンツや紙パンツで自立に向けて支援し、夜間は安眠を考慮してパッドを併用し、2時間毎に見守っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、水分摂取を試み排泄を心掛けている。食事献立は栄養士に相談をかけたりにしている。更に運動や散歩も全員参加して頂く取り組みをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入りたい人や時間を要する人などは、順番を変更したりして行っている。利用者によっては、担当職員を変更したりして工夫している。	開設当初から、毎日全利用者の入浴を支援している。入浴を拒む利用者には時間を調整したり、声かけなどを工夫して入浴につなげ、体調不良の利用者には清拭をしている。また、入浴で異性介助を拒む利用者には同性職員が対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地良く眠りにつけるよう、日中の活動に配慮している。睡眠に向けて、夕方からの穏やかで安心した時間を過ごせるよう取り組んでいる。暖かい飲み物を勧めて、お話をすることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬、処方、効能、副作用の説明をファイル保管し、全職員に徹底している。薬の変更や本人の状態変化が見られる時は、その症状、検査内容等についても詳細に記録し、協力医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食事の用意で、テーブル拭きやランチョンマット敷き等をお願いしている。感謝の気持ちを伝えるようにしている。利用者と地域の行事参加や楽しみ事を相談している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や楽しみ事に合わせて、外食やお弁当を持って戸外に出掛けるなど、積極的に外出している。お天気によっては当日のお出かけを計画したり、買い物や喫茶店でお茶を楽しんだりしている。	利用者の下肢筋力低下を予防するため、天気の良い日は毎日散歩に出かけている。天候が悪く外出できない日は、室内で歩行訓練をしている。初詣やドライブ、喫茶店にも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様によっては本人の希望もあるので少額を持たせたいとの意向もある場合、本人様の安心感を得る為にも所持する方向で考えている。買い物は家族様とあらかじめ金額を決めて、本人持参で直接支払ってもらっている。アクティビティの中でもお買い物計算を取り入れている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状と一緒に書いて頂いたり、本人様自ら電話を掛けてもらっている。スタッフが番号を伝え、本人が1つ1つ押されて話をされている。話の内容を、後でスタッフが家族様と話し、記録している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁は、季節にちなんだ飾り物を利用者と一緒に作り装飾したり、花を飾ったりしている。ホーム内室温は、温度計にて適温を測り工夫をしている。	居間には見やすい大時計を掛け、壁面には干支、十二支のぬり絵が貼られ、年回りや時間が分かるようにしている。また、季節の花が活けられ、畳コーナーでは利用者が洗濯物を畳んだり、温度を調整した室内ではソファでゆったりと思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの隅にソファを設置して、仲の良い利用者同士でくつろぐスペースがある。又、花などの装飾で居心地を良くしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔から使っていた品を持ち込まれ、壁には家族との思い出の写真を飾る等している。	居室には大きめの箆笥が備え付けられ、収納棚に衣類が整理されている。壁には父母や配偶者、孫等の写真が貼られ、ベッド周りに馴染みの鏡台やぬいぐるみを置き、ハンガー掛には好みの帽子やバッグを掛けるなど、利用者それぞれが居心地良く過ごせる居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって何が分かりにくいのか、どうしたら本人の力でやって頂けるかを追求して、状況に合わせた環境整備に努めており、その都度職員で話し合って不安の除去に努めている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				